

貧乏神 宮崎県

むかし、こんな貧乏神がおったげな。

貧乏神が、村のある家を訪^{おとず}れて、

「お茶が飲みたい。飲ませてもらえないか」とたのみました。家の人は、

「あなたは、どなたですか」とききました。

「貧乏神だ」と答えると、

「それでは、お茶はあげられない」とことわりました。

貧乏神は、つぎつぎと村の家を訪ねて歩きましたが、どこもお茶を飲ませてくれませんでした。

やがて、ある貧しい家の戸をたたいて、

「お茶を飲ませてもらえないか」とたのむと、

「どうぞ、どうぞ」と、親切にお茶を入れてくれました。貧乏神は、

「じつは、おれは、ほんとうは福^{ふく}の神だ。貧しくても、ほんとうの親切があつてこそ、人間だ」といいました。

こうして、その家は、福をさずかったげな。

村上郁再話

資料『半びのげな話』比江島重孝／未来社